

## 年間第2 6 主日福音メッセージ

マルコ 9:38-43.45.47-48

今週の日曜日、イエス様は「寛容」について教えてくださいました。寛容であること、寛容であることは疑わしいことであり、それが自由の乱用や暴力的な結果につながる可能性があるかどうかをチェックしなければなりません。人生の早い段階で子供の悪い行動を正せない母親は、間違った方法で寛容になっているのです。寛容さは、他の問題では正しいこともあります。むしろ、寛容を否定的な価値観だけで捉えるのは大きな間違いです。

福音書の中で、イエスは弟子たちに寛容であることを求めています。もし寛容さが良くないとしたら、なぜイエスは弟子たちに寛容さを求めるのでしょうか。それは、イエスの名のもとに「悪霊を追い出している人を見た」弟子たちが、その人がイエスに従う者ではないという理由で、悪霊祓いをするのを妨げたことから始まったと語られています。

弟子たちの心中は察するに余りあるものでした。悪霊の仲間ではないのに悪霊を追い出すことができるので、嫉妬したのでしょうか。悪霊を追い払う力は、イエスに従う者だけに与えられた特権であり、他の人には与えられていないと思い込んでいたので、怒っていたのでしょうか。弟子たちは混乱していた。突然、自分たちだけの特権だと思っていたものが、自分たちだけのものではなくなってしまったのです。

イエスには理由があった。私の名の下に力ある行いをする者で、同時に私の悪口を言う者はいない。私たちに逆らわない者は、私たちのためにいるのです』。この言葉でイエスは、キリスト教の謙虚さと慈愛の実践として、寛容さについて弟子たちに教えたのです。

この教えは、現代の私たちにも通じるものがあります。救いは、洗礼を受け、キリストを信じる私たちだけに与えられていると考えてはいけません。教会への入会、信仰、聖餐式は、今でも救いを受けるための普通の方法と考えられていますが、だからといって、神が人々を人生の中で「キリストの受難の神秘」に出会わせるための他の方法を提供する可能性を排除するものではありません。イエスの名の下に悪魔払いをした部外者のように、私たちは、本当の救いの源はイエスであり、それ以外のものはイエスの媒体に過ぎないことを理解しなければなりません。

イエスは私たちに、イエスとその教えに反しない限り、宗教的寛容さを求めています。慎重さゆえに、何かを許容すべきか、誰かを許容すべきかを疑ってしまうことがあります。しかし、イエスは私たちに宗教的寛容さを求めています。それは、私たちが自分の受けた信仰について識別することを個々に学ぶためでもあります。その答えの中に私たちの救いがあるのです。

ウィル神父